

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)		コンビニ（店長）	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィークや、天候にも恵まれたことで来客数は増加している。さらに、後半も5月にしては珍しく猛暑が続いたお陰で、売上もかなり伸びている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は4月から大変良い天候が続いているため、商店街のイベントは集客率が高くなっている。イベントに来た客はついでに買物もしており、特に飲食が好調である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが10連休となった影響で観光客は増えたものの、その後はまた静かな日常に戻っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークや、改元による消費意欲拡大が起因しているのか、2～3月と比較して来客数の前年比が2%ほど改善している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月より客単価に改善傾向がみられている。来客数の減少傾向はそのままであるものの、買上点数、客単価が好調に推移している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・当店では、店頭販売の他にカタログでの販売も行っている。ゴールデンウィーク中はカタログでの販売を中止していたが、その後の販売は好調であり、今月の数字を押し上げている。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・改元に伴って客の動きが良くなってきているように見受けられる。
		旅行代理店（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの影響が大きく、国内旅行、海外旅行共に好調に推移している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来月からの販売方法の変更を前に、駆け込み需要による販売量が増えている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・来客数が増えている。
		観光名所（職員）	販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークの後押しもあり、来客数の増加に加えて販売量の動きが大変好調に推移している。単価の上昇や、暑さに伴う消費の動きも良く、3か月前と比較して景気が良くなっている実感がある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの効果や、天候に恵まれたことにより、遠方からの来客数の伸びが良く、売上増加につながっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは休業した日も多く、連休後も出費の反動で消費が落ち込むと見込んでいたが、予想に反してトータルの月間売上はやや回復傾向となっている。ただし、これは客単価の上昇に助けられたものであり、来客数自体は落ち込んでいる。そのため、景気の動きとしては横ばいとなっている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・布団の仕立ての動きが止まっており、夏に向けた商品の動きも鈍い状況である。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商材が動いているため売上を確保しているものの、低額商材の動きが悪く、販売量は減少傾向にある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・改元やゴールデンウィークの10連休といった外的要因はあるものの、客の動きをみる限り、個人消費の活性化や景気回復には至っていないと見受けられる。
	百貨店（買付担当）	お客様の様子	・例年ゴールデンウィークは閑散としているが、今年は10連休効果なのか帰省客が多かったほか、比較的若い客層の来店が多く、スポーツ系のイベントが終日にぎわうなど例年にない動きがみられている。ただし、その後は連休の反動もあり購買につながらず、苦戦となっている。	
	百貨店（経営者）	来客数の動き	・期待していたゴールデンウィークは、前年に比べて若干上回ったものの、連休明けは来客数が減少して買い控えもみられている。結果としてほぼ前年並みの推移となっており、変化はみられていない。	

スーパー（経営者）	単価の動き	・5月当初は、改元に伴うご祝儀的な消費の盛り上がりがあったものの、それほど規模は大きくなく、月末には平均1品単価も例年並みに落ち着いている。また、月後半からは来客数、買上点数共に伸びず、全体的な消費の推移は横ばいとなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・チラシ商品の価格を従来よりも安くしているが、必要なもの以外を買わないという傾向が強く、結果として客単価が低い状態が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・10連休という長いゴールデンウィーク期間中の売上は大変厳しいものとなっている。ただし、その後は4月並みに戻りつつある。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・必要なものを必要な分しか買わないという客の傾向が続いている。
スーパー（営業担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは、改元に伴うお祝いムードで高単価の刺身、寿司、ステーキ、焼肉などの動きが例年になく良い状態であった。中旬以降も天候に恵まれ、飲料、アイス、カットフルーツなどの夏物商材が例年になく動いている。しかし、月間の店舗全体の売上、来客数の動きに大きな変化はない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は好調であったが、その後の客の動きはほとんどが目的買いとなっている。衝動買いが少なくなっているため、全体的に横ばいの推移となっている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温上昇に伴って、曜日によっては売上が前年並みとなる日が出てきている。しかし、来客数は増加していない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候に左右される時期であり、外的環境に変化がない以上は、気温1つで来客数の動きが変わってしまう。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィーク効果により、県外からの観光客の来客数は前年と比較して大きく増加している。ゴールデンウィーク期間中の売上は前年比15%の増加であり、5月全体としても5%の増加となっている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・背広のオーダー会や学生服や法人向けの夏制服の動きが順調である。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・消費者は気温の変化に振り回されているものの、必要なものだけを値頃に購入したいとする客層が増えており、1人当たりの買上点数が減少している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10連休というゴールデンウィーク後から、ビジネス衣料の買い控えが増えている。また、スーツ需要は年々減少している。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・白物家電において、特にエアコンは前年の猛暑の影響で買換えや新規購入の需要が高まっており、販売量の前年比は120～130%となっている。ただし、テレビを中心とした黒物家電の売上が伸び悩んでいる。
家電量販店（従業員）	単価の動き	・今後の気温上昇による季節商材の動きがどのようになるかということと、消費税の引上げ前の駆け込み需要がどうなるのかによって変わってくる。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税の引上げ前の駆け込み需要なのか、前月から個人客への販売量が増えている。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新規客において、土日祝日の来客数の動きに変化がない状態が数か月続いている。
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・月によって販売量に差はあるが、1台当たりの粗利は変わっていない。
乗用車販売店（本部）	販売量の動き	・消費税の引上げ前の駆け込み需要のため、ここ数か月は来客数、販売量共に前年を上回る状態が続いている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・5月から来客数が減少しており、苦戦している。
その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークの影響はあったものの、事前の準備のお陰で大きな影響を受けることは回避している。ただし、月末の売上は伸び悩んでいる状況である。

その他専門店 〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・ようやく気温が安定して過ごしやすい日が続いたことで、買物へ出掛ける人が増えた様子であり、10連休となったゴールデンウィークの売上も、例年と比較して若干のプラスとなっている。また、地方では出掛けるところがなくなるとショッピングセンターへと集まる傾向があり、多少は消費者の財布のひもが緩んでいるように見受けられる。
その他専門店 〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・前年とほぼ変わらない動きとなっている。
その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは好調に推移したものの、その後の来客数は落ち着いている。ただし、全体で見れば底堅く推移しているため、依然として順調な景気の動きとなっている。
一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・来客数の前年比が順調に伸びている。そのため、景気が特に悪くなっているという雰囲気はない。
一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・最近の傾向として、ランチタイムの来客数が減少している。ゴールデンウィーク期間中は観光客の数が大分多かった様子であるが、レストランには足を運ばないため、来客数が増えることはなく、足踏み状態が続いている。
一般レストラン （経営者）	競争相手の様子	・ゴールデンウィーク期間中の中だるみや、連休後の落ち込みを心配していたが、周囲で閉店した店舗の客が流れてきているのか、来客数は毎日好調に推移し、売上も前年を上回っている。また、今までは連休中も曜日の関係で出社していた人が、今年は長期の休みが取れたことで、スムーズに予定を立てることができ、遊びに出る人が増えたことも大きい。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は良かったものの、その後は反動のために例年よりも来客数は減少している。そのため、平均すると例年と変わらないが、やや減少気味となっている。
観光型旅館（スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの疲れが出ているのか、申込件数が増えていない。宿泊単価を下げる施策なども検討したが、平均宿泊単価が前年よりも1,500円ほど上がっているため、断念している。来客数については前年よりも大幅に減少している。
タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークから、グループ旅行の数が激減しているように見受けられる。友人旅行が最も多く、夫婦旅行や家族旅行がそれに続いている。宴会で費用がかさむようなグループ旅行は減少傾向にあるのではないかと。
通信会社（営業担当）	単価の動き	・物価の値上げが相次いでおり、収支バランスが崩れてきている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられていない。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新商品は売れないものの、現状は維持できている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の要望に変化がみられない。
通信会社（営業担当）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィークの来客数は8割程度である。ただし、期間中に2日間の店舗休業を実施したが、特段の影響は見受けられていない。
遊園地（経営者）	来客数の動き	・人手も含めて運営を懸念していたゴールデンウィークは、盛り上がるまではいかなかったものの、休日の増加で前年を上回ることができている。
美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月の来客数が前年比101%前後で推移している。
その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・5月は前半のゴールデンウィーク、後半の農繁期と営業日が少ないこともあり、来客数、売上共に低調に推移している。5月としてはここ5～6年の中でも最低の状況である。
設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・役所主体で運営している企業はダмпिंगで厳しい様子である。一方、民間主体で運営している企業は業績を維持又は拡張している。

住宅販売会社 (経営者)	競争相手の様子	・同業者は原価や売却の難易度が高い不動産物件に手を出さなくなっている。それが逆にビジネスチャンスとなっており、新築受注の材料となっている。
その他住宅[リフォーム](従業員)	販売量の動き	・住宅設備のエアコンの受付は増えているものの、増改築のリフォーム工事が減ったことにより、受注金額は伸びていない。
商店街(代表者)	お客様の様子	・商店街の商業複合施設が閉店セールを実施中であり、前年並みの売上及び来客数を維持しているものの、大型店の閉店に客は景気に対して不安を抱いている。また、政策である買物の5%還元ができるよう、キャッシュレス対応導入の店舗が増加している。
商店街(代表者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークにこれといった動きがないまま、5月も終わりとなっている。
一般小売店[医薬品](経営者)	販売量の動き	・ゴールデンウィークが長かったため、売上は前年比70%前後となっている。その後も平日は良いものの、中旬頃からは日々の変動が激しく、その状態が今も続いている。
一般小売店[酒](経営者)	お客様の様子	・今年のゴールデンウィークは、10連休ということや好天にも恵まれたことで、得意先の販売量は好調であった。ただし、その後の落ち込みも例年以上に大きくなっている。また、地元唯一の百貨店が、経営悪化により8月での閉店を公表している。経営者も消費者も地元経済への不安と落胆が大きく、影響が出ている。
スーパー(営業担当)	来客数の動き	・特売価格強度を上げるなど販促強化をしているが、来客数は前年比99.9%と前年割れとなっている。半分ほどの店舗は来客数が前年を上回っているものの、傾向的には前年を下回る店舗が増加している。
コンビニ(経営者)	単価の動き	・来客数や売上は堅調に推移しているものの、客単価が今年に入ってから最低の数値となっている。
コンビニ(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの来客数が予想より芳しくないため、苦戦している。
コンビニ(店長)	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが10連休ということで、街なかの店舗は全滅している。月末も自動車税の納付があるため、大分買い控えが目立っている。消費は冷え込んでいるが、景気のせいなのか、消費税の引上げに対する不安からなのか、判断できない。
衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・来客数も少ないが、暑かったり寒かったりで季節の変化がスムーズではないため、客からは夏物の購入に踏み切れない様子がうかがえる。
衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・来客数、客単価、買上点数共に、前年比90%の状態であり、売上に影響している。
その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・販売量が前年を下回っている。また、仕入価格の上昇で収益も減少している。
その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・販売量の減少傾向がより強まってきている。ゴールデンウィークによる増加もなく、連休後の販売量も減少傾向にある。
高級レストラン(経営者)	単価の動き	・全ての会社が直接の影響を受けているわけではないが、米中貿易摩擦の影響で消費マインドが落ち込んでいるように見受けられる。
一般レストラン(経営者)	それ以外	・来客数の動きも鈍いが、歓送迎会や宴会の数も例年と比べて段々と少なくなっている。
一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・今月は余りにも長すぎたゴールデンウィークの影響により、なじみ客も海外旅行や遠出をする機会が多いのか、なかなか来店してもらえない状況となっている。適度な連休ならまだしも、余りにも長すぎると当店のような地元客中心の店は大変な痛手となる。
観光型ホテル(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークに予約が集中したことで、その後は例年よりも利用客が少なく、週末でも空室が出るような状況である。
都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィークは、10連休の影響で宿泊、レストランなどの個人部門の売上が伸びたものの、その後は反動で減少している。また、企業の動きが低調であり、宴会場の利用も減少している。

	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの需要が良かった反面、それ以降の個人消費の動きが落ちてきている。特に5月より先の予約は例年よりも動きが弱い。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・タクシー業界は自社、他社共に乗車率が振るわない状況である。さらに、路線バスについても同様であり、全体的に景気は良くないとみている。
	通信会社（営業担当）	競争相手の様子	・米国大統領による貿易関税問題が徐々に響いているのではないかと。国内総生産における輸出の伸びが下降気味であるなど、業種別の不均衡が懸念される。業種別格差が広がるおそれがあるため、投資を控える企業が多くなっている。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新サービスへの加入希望者は増えているものの、工事業者の人手不足のため、サービスエリア拡大の工事が予定よりも遅れている。そのため、予定していた加入者の獲得ができずに工事、営業活動共に停滞している。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・4月はまあまあ良かったが、今月は悪い状態となっている。
×	一般小売店〔書籍〕（経営者）	来客数の動き	・10連休となったゴールデンウィーク後半から、一気に消費が停滞している。モールなどに出店している店舗全体でも、客単価による多少のカバーはあるものの、来客数、買上点数共に落ち込んでいる。
×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの10連休中は観光客が非常に多く、客単価は低いものの来客数は増加したことでにぎわっていた。ただし、その後は観光客の姿は全く見えなくなっている。そのため、来客数も減少し、全体として前年比10%の減少となっている。
×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク後に買い控えが起きている。また、ガソリン価格の高騰、物価の値上げも続いている。
×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの長期化により、ショッピングセンターや行楽地にはにぎわったものの、人の動きが分散したことにより、物販店には足を運ばない状況となっている。さらに、その後は消費の手控えがみられており、少し単価の高い当店のような業種はその影響を強く受けて来客数が大幅に減少している。
×	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新規受注が低落傾向にある。
×	住関連専門店（経営者）	単価の動き	・競争が激しく、新しい物件の問合せがあっても、受注量に結び付いていない。
×	タクシー運転手	それ以外	・10連休というゴールデンウィークに、悪い影響を受けている。
×	競艇場（職員）	来客数の動き	・なじみ客の来客数の動きが悪くなっている。
企業動向関連 (東北)	-	-	-
	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数年、販売量の前年割れが続いていたが、最近では前年同月を上回ることが増えてきており、景気はやや良くなっているように見受けられる。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・前年の果物農家の収入が例年よりも1～2割安かったことが影響している。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10連休というゴールデンウィークでは土産物がよく動いていた。しかし、連休最後の2日から余り動かなくなり、その後の動きも悪くなったため、前半の貯金を食い潰す形となり、最終的には前年を下回る売上となっている。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10連休となったゴールデンウィークの売上はプラス30%であったが、その後は前年同月よりも減少している。そのため、景気は良くなっていない。
	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量の動きは例年どおりに推移している。
	輸送業（経営者）	取引先の様子	・当社を取り巻く環境が変化しており、予定していた物量の動きは芳しくなく、横ばいで推移している。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・通信業界に対する厳しい反応が多いため、懇切丁寧な説明が必要となっている。
通信業（営業担当）	取引先の様子	・設備投資よりも経費削減に重きが置かれている。	
金融業（営業担当）	取引先の様子	・住宅ローン、マイカーローンなどの個人向けローンは堅調であり、底堅い感がある。	

	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・改元のお祝い広告出稿に期待をしていたがそれほどでもなく、前年比は微増で推移している。
	公認会計士	取引先の様子	・小売業、サービス業は相変わらず売上、利益共に前年比が減少しているが、建設業がどうにかカバーしている。この状況は3か月前から余り変わっていない。
	その他非製造業 〔 飲食料品卸売業 〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は観光客によりにぎわったが、連休前に投入した流通在庫が消化されるほどではない。その後は消費の盛り上がりもなく停滞している。
	農林水産業（従業者）	それ以外	・少雪の影響で農業用水の量が少ない。
	出版・印刷・同 関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・印刷物の受注量や飲食店などの様子から、景気はやや悪いと実感している。
	出版・印刷・同 関連産業（経 理担当）	取引先の様子	・飲食業から広告を集めて雑誌を発行している出版社などにおいて、広告の集まり具合が悪くなっている。
	窯業・土石製品 製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・出荷が増えているのはごく一部の地区だけであり、東北全体としての出荷量は微減傾向が続いている。
	電気機械器具製 造業（企画担 当）	受注量や販売量の動き	・在庫調整の影響により製品価格が下落している。
	建設業（従業 員）	受注量や販売量の動き	・官庁工事の設計変更があり、民間工事小規模案件の受注にとどまっている。
	金融業（広報担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・春以降、日用品や食料品を主体に値上げ品目を増加したが、消費者もその状況に対応してトータルでの出費を抑制している。その状況は現在も変わっていない。
	広告代理店（経 営者）	受注量や販売量の動き	・長いゴールデンウィークの影響か、いつもの月と比較して半分の発注量となっている。
	広告代理店（経 営者）	受注量や販売量の動き	・広告発注量の微減状態や、首都圏スポンサーにおける東北エリアへの広告出稿の減少傾向が顕著に表れている。
	経営コンサルタ ント	それ以外	・中心部の商業施設では、ゴールデンウィークの来客数は多かったものの、売上が伸びていない。さらに、連休後の来訪客は大きく減少している。
	コピーサービス 業（従業員）	受注量や販売量の動き	・IT関連の商談において、導入時期の延期や検討そのものが白紙になるケースが以前より増えてきている。客が設備投資に慎重になってきているように見受けられる。
	その他企業〔 企 画業 〕（経営 者）	受注量や販売量の動き	・得意先である流通業からの受注量が前年と比較して減少している。改元需要も掘り起こしには程遠く、その影響がなぜか尾を引いている状態である。
	x その他非製造業 〔 飲食料品卸売 業 〕（経営者）	取引先の様子	・当社も含めて同業者の売上が前年比、3か月前との比較において非常に落ち込んでいる。全般的に良くない状況である。
雇用 関連 (東北)	-	-	-
	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・例年、3月は契約満了に伴う契約終了者が最大となるが、今年はその後の4月稼働者数が前年比2けたの増加を達成している。そのため、第1四半期の推移は底堅いとみている。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は継続して増加傾向にある。また、取引先においても採用数が増えている様子である。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・オフィス系の派遣ニーズの推移に大きな変動はないが、軽作業や製造系ニーズは依然として高い。また、ゴールデンウィーク明けからは求職者にも動きがみられている。
	アウトソーシング 企業(社員)	それ以外	・仕事量が増えている。
	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・求人に対して応募がこない。さらに、求人数が非常に多いため、中小企業にまで人が回ってこないという状況が続いている。また、建材を扱っている企業などは、東北の仕事が減ってきているなか、関東圏の仕事を取りに動いている。
人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・採用不振の状況に大きな変化はない。	

	新聞社 [求人広告] (担当者)	採用者数の動き	・不足する人材を、新卒一括採用以外の手法で確保する動きが出るなど、積極的な採用から様子をうかがう姿勢に転じてきている。
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・求人数の減少もあり、有効求人倍率は前年同月比で微減となっている。ただし、事業所訪問時における感触に変化はみられていない。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は、3か月前と比べると1.1%減少している。新規求人数は7.8%増加しているものの、約60%が更新求人であることから、景気は変わっていない。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・月間有効求人数は3か月前と比較して3.5%増加しているものの、有効求職者数も増加している。また、有効求人倍率も例年の動きと同様であり、景況感に大きな変化はみられていない。
	学校 [専門学校]	それ以外	・景気が良くなるような要素がなく、物価の値上がりにより景気の悪化も懸念される。このような状態であるため、現在の景気は横ばいながらも余り良くない雰囲気がある。
	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・人手不足による有効求人倍率の高止まりが続いている。一方、特に製造業で先行き不安から求人を手控える動きが出ている。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・時期的なものもあるかもしれないが、仕事を探している人の動きは、エントリーなど含めて余り多くない状況である。
	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・東北地方の北側ではシャッター街も多く、ホテルの廃業も散見されている。決して景気が良くなっているとはいえない状況である。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・求人数の前年比が10%近く減少している。特に地元の主流業種であるサービス業や流通業の落ち込みが激しく、景気浮揚のブレーキとなっている。話を聞くと、採用したくても求職者が来ないため期待が薄いという傾向が続いており、経営的に採用できない状況になりつつある様子がうかがえる。
x	民間職業紹介機関 (職員)	周辺企業の様子	・米中貿易摩擦や欧米諸国の動向などから、国内生産が上向きな状況になっていない。派遣業界は減産と人員削減が発生している。